

## ■教育目的

参加型授業の実践。No.1～6：教科書の症例について、患者の臨床的問題をみつけ、患者中心の薬学的ケアについて話し合う。No.7～14：薬物治療学やその他の医療薬学系統講義で学んだ知識を模擬症例の薬物治療に応用し、より実践的な知識として理解を深める。薬剤師の視点から、正しい患者に、正しい薬を、正しい用法・用量で使用し、治療の有効性と安全性を正しく、かつ継続的に評価するための一連のプロセスを学ぶ。

【卒業認定・学位授与の方針：YD-③、YD-④、YD-⑥】

## ■学習到達目標

No.1～6：症例の病態・重症度評価。治療ゴールと標準治療に基づいて適切な治療法の選択。患者に疾患・治療方針・治療薬の情報提供・アドバイスをグループ学習する。No.7～14：薬物治療を評価・実践するための症例解析プロセスを挙げ、各ステップの内容について薬剤師の専門的な視点から評価・立案できる。（知識、技能、態度）

## ■準備学習（予習・復習）

No.1～6：予習：教科書のプレテストと症例の説問を各自であらかじめ解いておく（60分）。復習：各自が不明な点は調べてレポートを次回の講義までに完成して、講義開始前までにMY-CASTに提出する（60分以上；計3回） No.7～14：事前に配布される症例に関し予習レポートを作成する。

## ■授業内容

No.1～6：1時限はプレテストの解答（参加型）と症例のポイントについて講義を聞いた後、疾患と薬物治療について予め予習してきた説問に従ってグループで話し合う。2時限目は各説問について全体討議。次回の講義までに討論を参考にしてさらに調べて各自がレポートをまとめ、次回の講義開始前までにMY-CASTに提出する。疾患は事前にMY-CASTで確認しておくこと（予習のために必要）。No.7～14：1時限目の50分間は講義、10分間の休憩後、110分間の薬物治療評価演習。

No.	項目	授業内容	SBOコード
1, 2	8章。脂質異常症： 症例1、2	プレテスト講義とSGD/全体討議	
3, 4	13章。不整脈： 症例1、2	プレテスト講義とSGD/全体討議	
5, 6	16章。薬物有害事象： 症例1、2、3	プレテスト講義とSGD/全体討議	
7, 8	薬物治療評価の基本	薬剤師による薬物治療評価の基本的な視点 講義と演習（SGD）	
9, 10	薬物治療評価1	講義と薬物治療評価演習（SGD）1	
11, 12	薬物治療評価2	講義と薬物治療評価演習（SGD）2	
13, 14	薬物治療評価3	講義と薬物治療評価演習（SGD）3	

## ■授業分担者

石橋 賢一（No.1～6）、小川 竜一（No.7・8）、越前 宏俊（No.9・10）、庄司 優（No.11・12）、池上 洋二（No.13・14）、大野 恵子（No.8・10・12）、佐野 和美（No.12・14）、野澤 玲子（No.8・10・14）

## ■課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

No.1～6：質疑応答、出席、レポート（10%）、期末試験（90%）によって評価（45点分）。No.7～14：予習レポート（10%）と期末試験（90%）による評価（55点分）

## ■教科書

No.1～14：PROGRESS 症例解析演習（京都廣川書店 2015）

## ■参考書

No.3・4：ナビゲートシリーズ：循環器疾患（医学書院）No.7～14：Pharmacotherapy: A Pathophysiologic Approach, 10th (McGraw-Hill)、Applied Therapeutics: The Clinical Use of Drugs, 10th (LWW)：Dynamed（学内専用：my-port からアクセス）、Micromedex（学内専用：my-port からアクセス）、2ページで理解する標準薬物治療ファイル第2版（南山堂）、各種専門学会が作成する診療ガイドライン（最新版）、医薬品添付文書（医薬品医療機器総合機構 [PMDA] ホームページから入手可能）

## ■その他

No.1～6：予習しないとSGDに参加できない。No.7～14：医薬品集の情報に頼らないこと。